

安富祖 智 ギター リサイタル

SATOSHI AFUSO GUITAR RECITAL

1995年4月15日

具志川市民芸術劇場（燈ホール）

主催：虹の音の会

ごあいさつ

安富祖 智ギターリサイタルに寄せて

虹の音の会 主宰 牧野 哲仁

音楽家にとって、リサイタルと言うのは社会に対する義務と責任を果たす場として、とても重要な意味を持っています。

これまで単に好きだから弾いていたと言うのとは違って、社会に貢献できる音楽家としての証がリサイタルなのです。

そこには単に楽器を弾くこと以上の事が待ち受けており、それを乗り越える事が出来るかどうかで本当のギタリストと呼べるかが決まるのです。

このようなリサイタルに挑戦するギタリストとして沖縄では安富祖君で15人目になります。

氏は誠実で実直であり、自らの道を思索しながら歩む姿は、ともすれば流されてしまいがちな私達に警鐘を与えてくれています。

音楽を通して氏の身上が生かされれば私達にとってこのうえもなく貴重な財産であります。

どうか、「初心忘るるべからず」の身上で、これを機に尚一層の飛躍をされんことを祈念して初リサイタルの成功をお祝い申し上げます。

.....

奏者から一言

本日はお忙しい中、私のリサイタルへお越し下さいまして誠にありがとうございます。

サラリーマンをしながら、リサイタルを開くのは夢の夢だとばかり思っていたが、家族はもとより、職場や、友人の皆さんの御理解や御協力を得まして、本日ここに実現できましたことをとても嬉しく思います。

コンサートライブ独特の雰囲気の中、ギター音楽の良さを皆さんに少しでもお伝えできれば、なおさらに嬉しくおもいます。

奏者プロフィール

金武町出身

19才より独学でクラシックギターを始める。

新田宗彦、牧野哲仁各氏に師事。

1986年九州ギター音楽コンクール入賞。

現在仕事のかたわら、ギター音楽の普及につとめる。

プログラム



第 1 部

- 無伴奏チェロ組曲第 3 番よりブーレ I～II J・S・バッハ
Suite No.3 for Cello J・S・Bach
- 魔笛の主題による変奏曲 作品 9 フェルナンド・ソル
Variation Surl'air de Flute enchantee OP.9 F・Sor
- アデリータ フランシスコ・タルレガ
Aderita F・Tarrega
- アルハンブラの思い出 フランシスコ・タルレガ
Recuerdos de la Alhambra F・Tarrega
- 前奏曲第 4 番 エイトール・ヴィラ・ロボス
Prelude No. 4 H・Villa・Lobos
- 前奏曲第 1 番 エイトール・ヴィラ・ロボス
Prelude No. 1 H・Villa・Lobos

休 憩

第 2 部

- 大聖堂 I～II～III アグスティン・バリオス
La Catedral I～II～III A・Barrios
- アコンキーハ アグスティン・バリオス
Aconquija A・Barrios
- クエカ アグスティン・バリオス
Cueca A・Barrios
- 最期のトレモロ アグスティン・バリオス
Una Limosna Por el Amor de Dios A・Barrios
- ワルツ 作品 8 の 4 アグスティン・バリオス
Vals OP.8-4 A・Barrios

第1部 曲目解説

【無伴奏チェロ組曲第3番よりブーレI～II】

音楽史に燦然と輝くヨハン・セバスティアン・バッハ（1685～1759）はバロック時代の巨匠で数多くの名曲を残しています。

バッハは、全部で6つの無伴奏チェロ組曲を作曲しましたが、今回はその内の第3番で7つの曲のうちからブーレ2曲を抜粋しました。

ブーレとはフランス起源の軽快な2拍子系の舞曲です。

【モーツアルトの魔笛の主題による変奏曲】

スペイン バルセロナ生まれのフェルナンド・ソル（1778～1838）は、ギターの古典期を代表する名演奏家兼作曲家で、格調高い名曲を多く残しています。

曲は、ゆるやかな序奏と、モーツアルトの歌劇「魔笛」の中のアリアを主題に5つの変奏とコーダからなりたっています。

【アデリータ】

スペインのバレンシア地方ビリヤレアル生まれのフランシスコ・タルレガ（1852～1909）は、音楽の世界にピアノやオーケストラが台頭し、音量に乏しいギターが衰退の一途を辿っていた時期に現われた、ギターの救世主ともいふべき名演奏家兼作曲家です。

ギターのショパンとまでいわれましたが、しかし、その作品はまさしくギターならではの味わい深いロマンティックな魅力に富んだものです。

アデリータは、少ない音を効果的に活かした小品です。

【アルハンブラの思い出】

アルハンブラの思い出はタルレガの作品の中で、最も有名な曲です。

トレモロ奏法で終始するこの曲は、アルハンブラ宮殿の噴水から流れ出る水をイメージしたものと言われています。

【前奏曲第4番ホ短調「インディオへの賛歌」】

エイトール・ヴィラ＝ロボス（1887～1959）はブラジルが生んだ世界的作曲家で、ギター曲に限らずピアノやチェロ、室内楽等に優れた作品を残しています。前奏曲は全部で5曲作曲されました。そのうち第4番は南米大陸先住民への賛歌と呼ばれ、神秘的な雰囲気を持つ曲です。

【前奏曲第1番ホ短調「抒情のメロディー」】

前奏曲第1番は、チェロの演奏も得意としたこの作曲家の一面を窺わせるように、低音弦をたっぷりと歌わせた主部の抒情的なメロディーと中間部の躍動的なアルペジオの好対象を持つ作品です。

第2部 曲目解説

【大聖堂 I～II～III】

パラグアイ生まれのアグスティン・バリオス（1885～1944）は南米やヨーロッパ諸国を放浪した後、中米エル・サルバドルに没した空前絶後の名手とさえ言われた名演奏家兼作曲家です。

大聖堂は彼の代表的な作品で、旅先のある教会から流れてきたバッハの音楽に感銘をおぼえて作曲したとされています。

第 I 楽章 Saudade (郷愁、追憶)

第 II 楽章 Andante Religioso (宗教的なアンダンテ)

第 III 楽章 Allegro Solemne (壮厳なアレグロ)

以上の3つの楽章からなりたっています。

【アコンキーハ】

バリオスには旅先で訪れた土地のメロディーやリズムにヒントを得て作曲した曲が多数ありますが、このアコンキーハもそのひとつです。

アコンキーハとはアルゼンチン北西部にある山の名前で、曲調にアンデスの古い民謡「トリスト」を取り入れています。

曲の途中でギターの特奏法タンボーラ（太鼓の意）が曲を盛り上げます。

【クエカ】

クエカは南米チリの代表的舞曲ですが、リズムやフィーリングにバリオス独自の色合いがみられます。

ここでもタンボーラ奏法が効果的に用いられています。

【最期のトレモロ】

バリオスの死の1ヵ月前に書かれたという遺作。

バリオスが最晩年、エル・サルバドルでひっそりとギター教授をしていたある日、彼に施しをねだる、みすぼらしい老婆のドアをノックする音と哀れっぽい声に靈感を得てほとんど即興的に、このトレモロの名作を書き上げたと言われています。

病床に伏して、尚、ギターを手離さなかったというバリオスの姿を彷彿とさせる作品です。

【ワルツ作品8の4】

バリオスのワルツはショパンからの影響がみられます。

ワルツ作品8の4番はト長調をとり、華やかで変化に富んだ作品です。



管楽器修理専門店

マエダ管楽器

金武町字金武507

TEL 098 (968) 5707

